財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

年報

平成
6年度

1995

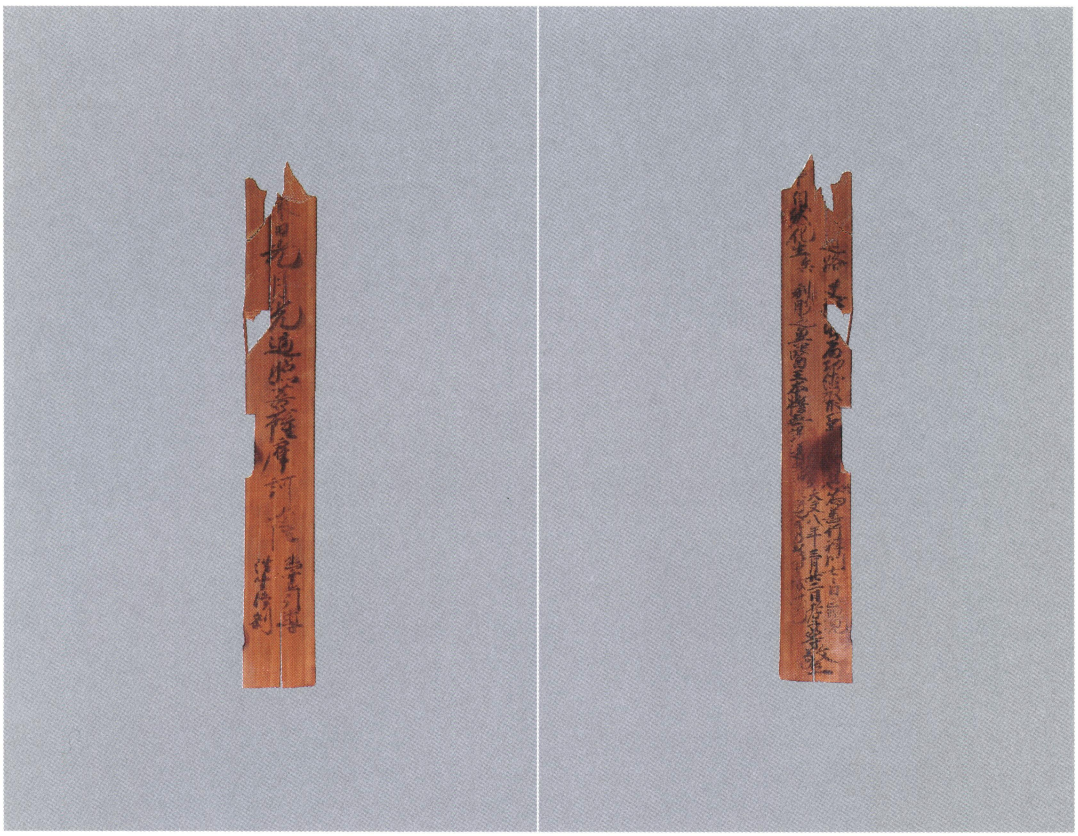
㈶愛知県埋蔵文化財センター



門間沼遺跡で検出された古墳時代の井戸　（P 36 参照）



鳥羽城跡調査区全景　（P 60 参照）



大毛池田遺跡から出土した紀年銘卒塔婆 （P 10 参照）



清洲城下町遺跡で確認された内垣の石垣 （P 50 参照）

序

財団法人愛知県埋蔵文化財センターは、昭和60年度に設立され、10年が経過いたしました。本センターは前身の愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査部以来、公共事業の事前発掘調査を実施してまいりましたが、国・県等の公共事業の増大にともない、調査面積は年々増大を続けております。

本年度もこれらの発掘調査の概要や調査研究、普及活動の記録を「年報　平成６年度」として公表することとなりました。本書が考古学の研究はもとより、埋蔵文化財の保護と活用の上でもお役に立つことができればまことに幸いに存じます。

本書の刊行及び発掘調査にあたっては、理事・専門委員の諸先生方及び愛知県教育委員会のご指導を賜るとともに、建設省・道路公団・愛知県総務部・土木部・企業庁・地元各市町村・そのほかの関係者のに方々から多大なご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

平成７年３月

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

理事長　安部　功

例　言

1．本書は財団法人愛知県埋蔵文化財センターの平成６年度における事業の概要をまとめたものである。

2．発掘調査および整理報告書の作成は、建設省中部地方建設局、日本道路公団名古屋建設局、愛知県総務部、愛知県土木部、愛知県企業庁から、愛知県教育委員会を通じた委託を受けて、本センターが実施した。

3．調査の概要は、各遺跡ごとにまとめて記載した。

4．普及活動の概要は、本センターの事業のうち、研修会・埋蔵文化財展など発掘調査以外の事業について掲載した。

5．調査に当たっては、理事・専門委員の各氏及び愛知県教育委員会文化財課、愛知県埋蔵文化財調査センターの指導・助言をいただいた。

6．本書の編集は蟹江吉弘、永井宏幸、池本正明（調査研究員）がおこなった。また関係各機関や各遺跡の発掘・整理にかかわる作業員の方々には多大な援助を賜った。

7．各遺跡における調査区の座標は、国土座標第Ⅶ座標系に準拠する。

8．各調査区の名称はＡ区、Ｂ区……のようにローマ字で表し、調査した西暦年度の下２桁を調査区名の前に冠した。(ただし、昭和63年度以前については西暦ではなく年号の年度を冠している。)したがって平成６年度の調査区は94〇区となる。

9．文責は各文末に記した。

財団法人　愛知県埋蔵文化財センターの組織

役　員

理事長

安部　功

常務理事

倉知　昌視

理　事

野村　光宏	愛知県教育委員会教育長
井関弘太郎	名古屋大学名誉教授
伊藤　秋男	南山大学教授
大参　義一	愛知学院大学教授
坪井　清足	財団法人大阪文化財センター理事長
楢崎　彰一	名古屋学院大学教授 (名古屋大学名誉教授)
名倉　庸一	都市教育長協議会会長(西尾市教育長)
清水　榮一	町村教育長協議会会長(小坂井町教育長)
蛇川　雄司	愛知県土木部長
島田　利	愛知県教育委員会社会教育部長
武田　晋	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館館長(清洲町長)
山田　敬二	愛知県陶磁資料館館長

監　事

竹本　光雄	愛知県出納事務局次長
野口　雅章	愛知県教育委員会管理部総務課長

専門委員

考古学	楢崎　彰一	名古屋学院大学教授 (名古屋大学名誉教授)
文献史学	福岡　猛志	日本福祉大学教授
地理学	海津　正倫	名古屋大学助教授
建築史学	小寺　武久	名古屋大学教授
考古学・動植物学	渡辺　誠	名古屋大学教授
形質人類学	池田　次郎	京都大学名誉教授
保存科学	沢田　正昭	奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財センター 遺物処理研究室長
岩石学	諏訪　兼位	日本福祉大学教授 (名古屋大学名誉教授)
木材組織学	木方　洋二	名古屋大学名誉教授

職　員

事務局長 (兼管理課長)	荻本　亮	
管理課		
主　査	牧野　豊	
専門員	大島　友子	
主　任	伊藤　弘	
主　事	伊藤　博樹	小杉　正樹
	坂　美貴子	
調査課		
課　長	中川　真文	
課長補佐 (兼主査)	高橋　信明	都築　暢也
主　査	大竹　正吾	前田　雅彦
	福岡　晃彦	杉浦　茂
調査研究員	小澤　一弘	赤塚　次郎
	小泉　渡	増沢　徹
	神谷　知幸	小池　一徳
	松田　訓	伊藤　秀紀
	黒田　哲生	石黒　立人
	宮腰　健司	水谷　寛明
	栗林　典昭	今西　康二
	西原　正佳	酒井　俊彦
	池本　正明	余合　昭彦
	秋田　幸純	小嶋　廣也
	服部　俊之	小川　芳範
	鈴木　正貴	牧　謙治
	蟹江　吉弘	樋上　昇
	飴谷　一	堀木真美子
	永井　宏幸	鬼頭　剛
	北條　真木	原田　幹

(平成６年６月30日現在)

目　　次

Ⅰ．**平成６年度事業の概要**…… 1

Ⅱ．**遺跡調査の概要**…… 5

調査の理由と工程…… 6

遺跡の位置…… 8

大毛池田遺跡……10

大毛沖遺跡……26

門間沼遺跡……36

田所遺跡……46

西上免遺跡……48

清洲城下町遺跡……50

正楽寺跡・儀長城跡・儀長寺通遺跡……52

一色青海遺跡……56

鳥羽城跡……60

Ⅲ．**調査研究**……65

〈資料紹介〉名古屋城三の丸遺跡の旧石器……都築暢也……66

弥生集落史の地平―地域社会への接近をめざして―……石黒立人……68

尾張の一地域における古墳時代後半期の古墳

―富塚古墳の墳丘測量結果を基にして―……牧　謙治……78

“美濃”刻印須恵器からみた大毛池田遺跡―その１―……小川芳範……88

奈良・平安時代の土師器甕について

―大毛池田・沖遺跡の出土遺物を中心に―……永井宏幸……98

大毛沖遺跡出土の墨書陶器……小池一徳 …… 106

田所遺跡とその周辺……増澤　徹 …… 114

大毛池田遺跡出土の土師器皿について

―94Ｊ区出土遺物の検討―……北条真木 …… 122

濃尾平野北西部、大毛池田遺跡の

古墳時代前期埋没水田について……鬼頭　剛 …… 128

濃尾平野における歴史時代の地震痕―その３―……服部俊之 …… 136

Ⅳ．**埋蔵文化財センターの活動** …… 147

埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会 …… 148

発掘調査技術等研修会 …… 149

現地説明会・発掘調査成果報告会 …… 149

資料の貸出・提供 …… 150

検討会 …… 152

Ⅴ．**付篇　（受贈図書目録）** …… 153